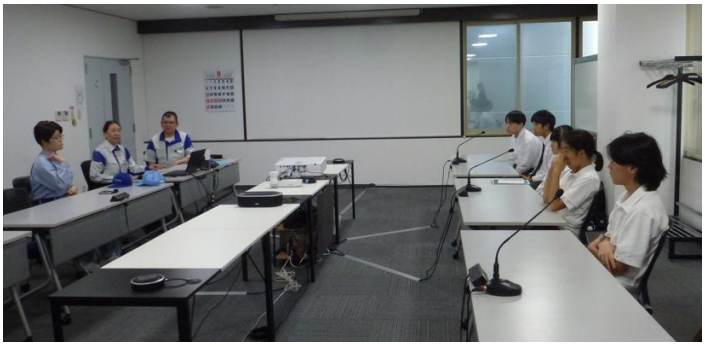
キャリア教育だより

群馬県立聾学校　進路指導部
令和８年１０月３０日発行　№.３

前号では「自分自身をよく知る」についてお話ししました。二学期になり、高等部３年生は卒業後の新たな生活に向けて、就職試験や大学入学者選抜を迎え、「伝えること」の大事さや難しさを経験しています。聾学校で日常的に受けている情報保障は、聴覚障害者に理解がある職場などにおいても当然のことではなく、必要な支援を自分から具体的にお願いしなければなりません。高等部の１・２年生も就業体験に向けて、自分の強みや困る場面などを具体的に伝える準備をしています。「就職や進学はまだ先」という小中学部生も、今から少しずつ、自分の思いを言葉にして伝える力をつけていってください。

高等部　事業所見学会



９月１７日、普通科と情報デザイン科の１年生が、キヤノン電子株式会社（美里事業所）と田中貴金属株式会社（富岡工場）を訪問しました。キャノン電子では、会社の概要説明の後、プリンターの組み立てから出荷までの様子を見学しました。商品ができるまでに数多くの人が責任をもって関わっていることを知りました。田中貴金属では、極小の電気接点材料を作る工程を見学しました。生徒たちは、大きな音が響く中、検査衣で視界が悪くマスクもして口元も見えないという厳しい職場環境で働くことのたいへんさを実感したようでした。どちらの会社にも聾学校の卒業生が勤務していて、自分の仕事の内容や進路を決めたきっかけなどを話してくれました。

中学部・高等部（合同）　進路講演会



９月１日に外部から講師２名をお招きして実施しました。

進学・就職部会では、障害者雇用支援事業を行っているパーソルダイバース株式会社より、採用担当の砂川明子様をお迎えしました。講演では働くことの意義や身につけるべきこと、実際の就労の様子などをお話しいただきました。また、筑波技術大学障害者高等教育研究センターからは田中豊大様をお迎えし、進学の上で必要な自己理解や合理的配慮の必要性とその方法、学力とともに一般常識を身につけることの大切さをお話しいただきました。

中学部の生徒からは「自分だけでなく誰かのためになるよう働くことが大切だとわかった」「合理的配慮について新しく知ったことがあった」「仕事に必要なものは勉強や能力以外にもあるとわかった。毎日の挨拶や、失敗してもチャレンジする気持ちが大切だ」等の感想が寄せられ、毎日の生活でも大切なことを、改めて前向きにとらえ直すことができた様子でした。

高等部の生徒からも「合理的配慮は当たり前のことではなく、自分からお願いしたり行動したりすることが必要」「挨拶をすることや笑顔でいることを頑張りたい」「相手にわかるようなコミュニケーションをとるために言葉の練習をしたい」「勉強が難しくても、できる限り頑張ることが大切だ」などの感想が寄せられました。

福祉部会では、就労継続支援Ａ型事業所、Ｂ型事業所、就労選択支援事業所の方をお招きして、それぞれの施設の特徴や受けられるサービス等についてご説明をいただきました。今回は中学部の生徒も参加し、先輩が働いている様子の写真を見て高等部卒業後のイメージが少し持てたようでした。

中学部　高等部体験入学




９月１０日、中学部３年生は高等部体験入学に参加しました。普通科では高等部の国語や数学などの授業を、情報デザイン科では商品のデザインや製作を体験しました。実際に高等部で学んでいる先輩たちからの説明やアドバイスを受け、進学についての具体的なイメージを膨らませることができたことと思います。

小学部　手話教室

９月４日に、群馬県聴覚障害者連盟の川端先生と田島先生をお招きし、手話教室を行いました。低学年は、「色々な味」の手話表現や「大きなかぶ」の劇を通じて、手話を使って自分の思いを伝える楽しさを学びました。高学年は「上毛カルタ」の手話表現に挑戦するとともに、講師の方々の仕事や生き方の体験談を聞きました。「諦めないで少しずつ進むことが大切」「やりたいことはたくさんあって良い」などのメッセージをいただき、将来の夢や自分らしい生き方を考えるきっかけとなりました。






幼稚部　保育所との交流

年間を通してろっくひよこプリスクールと前橋市立六供保育所との交流を行っています。屋外ではお友達と砂場でおままごとをしたり、聾学校にはないキックスクーター乗りに挑戦したりと、のびのび遊んでいます。屋内では歌やダンス、ルール遊びなどにも取り組んでおり、普段と違う大人数での活動は貴重な経験となっています。キャリア教育の視点でもある「人とかかわる力」の芽生えを感じています。






寄宿舎　スマホミーティング

９月２４日、高等部舎生が集まり、スマホ等の適切な使用方法についてミーティングを行いました。最初に自治会役員が中心となって、生活リズムの乱れに関係する就寝時のスマホの管理について「自己管理で自室保管」と「指導員室に保管」のどちらが良いかでディベートをしました。次に、そこで明らかになった課題を踏まえて、指導員から就寝前のスマホ使用（ブルーライト）の悪影響についての話を聞きました。結論として、スマホの依存性に対して自己管理能力での対応が難しい現状があるということへの気づきがありました。今後も継続的に相談を行っていく予定です。

